

《巷説百物語 (角川文庫) (文庫)》

图书基本信息

书名：《巷説百物語 (角川文庫) (文庫)》

13位ISBN编号：9784043620029

10位ISBN编号：4043620020

出版时间：2003

出版社：角川書店

作者：京極夏彦

页数：518

版权说明：本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介以及在线试读，请支持正版图书。

更多资源请访问：www.tushu000.com

《巷説百物語 (角川文庫) (文庫)》

内容概要

泉鏡花賞受賞作『嗤う伊右衛門』にも登場する小股潜りの又市が、江戸の世を舞台に悪党を退治する時代小説の第1弾。デビュー作『姑獲鳥の夏』に始まる「憑き物落とし」中禅寺秋彦が活躍する作品群とは、また味わいの異なる妖怪シリーズだ。

寺への帰路で豪雨に見まわれ、やむなく途中のあばら屋に逃げ込んだ1人の僧。小屋には白装束の御行、人形遣いの女、そして初老の商人と若い男が居合せていた。雨宿りの余興に始まる「百物語」。一見無関係な怪談話は、意外な符号を伴って僧の心の内で形を成す。小屋の外では「しより、しより」と何者かが小豆を磨く音が。やがて僧は、恐るべき怪異と出会う…。

立ち現れるのは、江戸時代の絵師竹原春泉の『絵本百物語』に描かれる小豆洗い、白蔵主（はくぞうす）、舞首、芝右衛門狸、塩の長司、柳女、帷子辻（かたびらがつじ）の7妖怪。又市をはじめとする小悪党一味、山猫廻しのおぎん、事触れの治平らは巧妙な罠を十重二重（とえはたえ）に張り巡らせ、どうにも立ちゆかない事態を「妖怪」のしわざとして収める。著者自身の言葉を借りれば、本作は、難事件を「妖怪」と名づけて払い落とす中禅寺のシリーズの「裏返し」なのだそうだ。

又市は「悪党だから死んでもいいなンていううざってエ小理屈も俺達にヤア関係ねエ」とうそぶく。そして「悲しいねえ」と言葉を継ぐ。登場する妖怪たちは、人間の心の闇や業（ごう）が形を成した末の「悲しい姿」だ。そもそも春泉の『絵本百物語』は人間の醜い心を風刺したものでもある。その業を見据える又市の姿が、たんなる勧善懲悪の時代劇ではない深みを物語に与えている。（中島正敏）--このテキストは、単行本版に関連付けられています。

《巷説百物語 (角川文庫) (文庫)》

作者简介

京極 夏彦

小説家、意匠家。1963年北海道生まれ。1994年、かねてよりアイデアを温めていた妖怪小説『姑獲鳥の夏』で鮮烈な小説家デビュー。『魍魎の匣』で第四十九回日本推理作家協会賞、『嗤う伊右衛門』で第二十五回泉鏡花文学賞、『覗き小平次』で第十六回山本周五郎賞を受賞(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

《巷説百物語 (角川文庫) (文庫)》

精彩短评

《巷説百物語 (角川文庫) (文庫)》

版权说明

本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问:www.tushu000.com